

一体どこへ連れて行かれるんだ!?



「青梅」へ歴史研修。B29墜落地碑を訪ねて、山奥へ。

【後編】昭和20年、東京大空襲で街を焼け野原にしたアメリカのB29。墜落したのは武蔵野市の中島飛行場を爆撃したB29で日本軍の高射砲撃を受け、青梅の山奥に墜落した。搭乗員11名のうち5名は亡くなり6名は脱出した。日本の敵である米兵を青梅の人は報復はしなかった。赤塚不二夫会館の次に向かった先は、その墜落地碑。スーツと革靴、あまりにもふさわしくない格好で来てしまった。地元の方から思いがけない話も聞いた。これぞ現地現場でしか知ることのできるべき講義であった。



↑山を登ること約30分。急斜面にひっそりとたたずむB29墜落の地碑があった。地元の方が私有地に建てたそうである。学生たちはそれぞれ手を合わせ、下山した。何か物足りない、ということで、この辺りに住まれる方に当時の話でも聞いてみよう、という展開になり、見ず知らずの家々をピンポン?することに?



↑墜落したB29のエンジン。青梅市郷土博物館に展示。



↑山を下りると、地元のおじさんに遭遇。当時の話を聞かせてほしい、とお願いすると、ある方を紹介いただく。「そんなら、この家に行くとええ」と。



ここに注目!

←紹介された家。大勢の学生が来たため、相当驚かれていましたが、快く話していただきました。B29が墜落したとき、このご婦人は当時4歳だったそうです。山が真っ赤になった、と生々しく語っていただいた。おばさんの庭が講義に…。 ※詳細は会員さんに送るDVDにて

【編集後記】

「ネタに走っていませんか?」とご指摘をいただきました。これでもセーブしています。本当に、毎日、こんな講義です。これで「人間力」が身に付かないはずがありません!!!



次の電車が来るまで、本日1日の講義アウトプットを「軍畑(いくさばたけ)駅」にて →